

令和5年度事業報告書

I. 基本方針

公益財団法人沖縄県交通遺児育成会は令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）も、交通遺児等への無償の給付事業をより充実したものとすることを目的に、「1. 奨学金等給付事業」、「2. 人材健全育成事業」、「3. 募金・寄付金受入事業、広報活動事業」を次の通り実施いたしました。

II. 事業報告

1 奨学金等給付事業

令和5年度は、生計の維持が困難な交通遺児等を対象に延べ48人に対し、総額410万7,352円を給付しました。

(1) 奨学・育成金の給付

児童生徒・学生39人（前年度比12人減）に、計339万円（同144万4,000円減）を給付しました。

内訳は、小学生5人（前年度比4人減）、中学生13人（同2人増）、高校生13人（同7人減）、特別支援学校生0人（昨年同）、専門学校生6人（昨年同）、大学生2人（同3人減）でした。

給付者の募集は、新学期開始と同時に県内小学校から大学までの527校へ在籍調査を依頼するとともに、継続ご家庭へも申請書を送付します。

応募のあった申請書は、給付条項に基づき事務局内での書類審査が行われます。

同年10月、専門家らで組織する選考委員会で、当年度新規申請者（2世帯5人）を含む39人の申請に対し、全員が正式認定されました。

【ア. 育成金】

小学生	5人	240,000円
中学生	13人	702,000円
高校生	13人	1,248,000円
小計	31人	2,190,000円

【イ. 奨学金】

専門生	6人	720,000円
大学生	2人	480,000円
小計	8人	1,200,000円

※ア、イの合計 人数39人、給付額3,390,000円
（前年度比12人減、1,444,000円減額）

(2) 激励金の給付

激励金は対象者1人（前年度比4人減）に対し、2万円（同8万円減）を給付いたしました。対象者には学校を訪問し、理事長からの激励の言葉を贈り子ども達を勇気づけています。当年度は中学校の卒業生1人を訪問いたしました。

【ウ. 激 励 金】

中学校卒業	1人	20,000円
小 計	1人	20,000円

(3) 見舞金の給付

当年度対象者は5人（前年度比2人増）に15万円（同6万円増）を給付しました。
こちらも激励金同様、学校訪問をいたしました。

【エ. 見 舞 金】

小学生	1人	30,000円
中学生	1人	30,000円
高校生	3人	90,000円
小 計	5人	150,000円

(4) リーダー育成金の給付

海外派遣支援の取組みとして、沖縄県立開邦中学校が主催する開邦雄飛海外プログラム（派遣先オーストラリア）に同校1年男子生徒1人（前年度なし）へ派遣費用全額を給付しました。国内の派遣支援は、公益社団法人沖縄県青少年育成県民会議が主催する「青少年フレンドシップイン九州（派遣先熊本県）」へ2人（前年比1人増）を推薦、こちらも派遣費用全額を給付しました。

なお、海外・国内派遣支援については、一部規程の見直しや要綱等を新設し令和5年度（同6年3月15日開催）第3回理事会で提案、承認を得ております。

【オ. リーダー育成金】

(海外派遣)

中学1年男子	1人	417,352円
小 計	1人	417,352円

(国内派遣)

小学5年女子	1人	65,000円
中学1年男子	1人	65,000円
小 計	2人	130,000円

※ア～オの合計 総人数48人、総支給額4,107,352円
(前年度比12人減、976,648円減額)

なお、給付者減少について考えられる要因は以下にまとめました。

- ① 交通事故死傷者数の減少や交通遺児家庭の減少。（少子化傾向によるもの）
- ② 進学、就職等による給付修学期間の終了。
- ③ 地方自治団体独自の就学援助や他団体奨学金制度選択に伴う減少。
- ④ 後遺障害者を負った保護者をもつ交通遺児等の情報収集不足。

※上記③の改善策として、令和5年度選考委員会で給付条件の二重給付禁止を撤廃しました。
申請内容を緩和したことで今後に期待したいです。

2 人材健全育成事業

交通遺児の子ども達をイベントへ招待し楽しんでもらう、当会の選考内規で対応できない県外進学 of 大学生・専門学校生を外部の奨学制度に推薦する、さらに県内外へ派遣することによりリーダーシップを養ってもらうため、以下の取組みを行いました。

(1) クリスマス交流・激励会の開催

交通遺児家庭に、ひと時でも親子で楽しんでいただこうという趣旨です。当年度は、クリスマス時期のイベントとして、カヌチャベイリゾートにて開催された「カヌチャスターダストファンタジア 2023-2024」(2023年11月1日～2024年2月14日)へ入場券とファンタジアホログラスを寄贈され各家庭へチケットを贈りました。

また、全日本港湾労働組合沖縄地方本部と琉球物流から沖縄初上陸の「ハッピードリームサーカス」(2023年12月22日～2024年3月3日)のチケットをいただき、各家庭へ配布し世界最高レベルのスーパーパフォーマンスを楽しみました。

(2) (公財)儀間教育振興会への大学生・専門学校生の推薦(指定枠)

公益財団法人儀間教育振興会の奨学制度へ交通遺児枠として県外進学の大学生8人と県内の大学生2人、計10人を推薦しました。平成5(1993)年度に交通遺児枠が設けられ、以来31年間で352人の学生を推薦しました。給付総額は8,174万円に上ります。

(3) 海外派遣の支援

沖縄ライオンズクラブの「夏季YE(青少年交換)海外短期留学」は同クラブ会員子弟が優先され当年度も派遣なしでした。引き続き海外留学という貴重な経験を提供できるよう、同クラブへのアプローチは継続します。

それとは別に、沖縄県立開邦中学校主催の海外語学研修に参加希望の中学1年の男子生徒へ、初めて派遣費の支給をしました。

これは、令和6年3月18日～25日(5泊8日)の日程を通し、オーストラリアでの語学研修を目的とするプログラムで参加希望の保護者からの相談を受け支援に繋がりました。

なお、派遣までの経緯は以下のとおりです。

① 当会の海外派遣について、遺児各自へ案内をかける(南風102,103号へも募集掲載)

② 保護者より、相談あり事務局より概要について説明

③ 実施に向け海外派遣用の募集要項や内規、申込書等(仮)作成

令和5年10月18日理事長より決裁済

④ 12月5日、局内において面接を行う(=写真右)

⑤ 12月6日、本人の希望と意志を確認し決定する。

⑥ 3月18日～25日派遣先出発

⑦ 3月27日帰国報告

⑧ 3月28日旅費精算



(研修報告書は12、13頁に掲載しています。)

- (4) 国内派遣の支援（沖縄県青少年育成県民会議主催の県外派遣団員2名の推薦と派遣費支援）
公益社団法人沖縄県青少年育成県民会議が主催する「青少年フレンドシップイン九州」（7月）へ小学5年生女子と中学1年生男子を推薦しました。

4泊5日の日程で県外の子ども達と交流し、共同生活の中で自主性や協調性を養うことを目的としている同会議主催においては、特別に交通遺児枠が設けられています。

「県外の景色やいろいろな場所の見学ができて楽しかった」、「沖縄では普通出来ない体験をすることができた」などが寄せられた感想文は機関紙「南風」102号にも掲載しています。

3 募金・寄付金受け入れ事業、広報活動事業

募金・寄付金の受け入れ事業については、交通遺児らを支援する奨学金等給付事業や健全育成事業を運営するとともに、交通事故防止のための啓発活動や当会の事業周知のための広報を実施しました。

(1) 寄付金受け入れ状況

寄付金は、「指定寄付」と「一般寄付」に区分し管理しています。

当年度の寄付総額は2167万6,639円（対前年度比78万9,430円増）でした。

内訳は表の通りです。

寄付の種別	科 目	令和5年度	前年度	差 額
指定寄付	団体寄付	14,028,207円	15,016,800円	△988,593円
	個人寄付	2,694,339円	2,018,758円	675,581円
	賛助員寄付	1,495,000円	1,309,670円	185,330円
	学校募金寄付	90,020円	152,815円	△62,795円
	小計	18,307,566円	18,498,043円	△190,477円
一般寄付	ボックス募金寄付	2,196,473円	1,916,666円	279,807円
	受贈品寄付	1,172,600円	472,500円	700,100円
	小計	3,369,073円	2,389,166円	979,907円
	総額	21,676,639円	20,887,209円	789,430円

ア. 指定寄付の状況

公益目的事業（交通遺児育成事業に係る費用）にのみ使用できる指定寄付は、団体寄付、個人寄付、賛助員寄付、学校募金寄付の4つに区分されます。当年度は全体で1830万7,566円、対前年度比は19万477円減額です。内訳で減額になったのは、団体寄付で前年度に比べ98万8,593円、学校募金が6万2,795円と減額いたしました。要因としては多方面からの寄付依頼や、自然災害による義援金等で企業や学校は特に影響を受けやすいことから、減額になりました。一方、個人寄付は前年に比べ67万5,581円、賛助員寄付も18万5,330円の増額です。令和5年度は新規の周知や広報を行った結果、個人の初寄付に繋がりました。賛助員寄付の増額も休眠会員の掘り起こしが成果として現れました。

イ. 一般寄付の状況

全体の50%を法人会計（法人運営に係る費用）に使用できる一般寄付は、ボックス募金寄付とイベント招待券などを現金同様に扱う受贈品寄付が対象です。

ボックス寄付は219万6,473円で前年に比べ27万9,807円増額でした。新規設置は7件で、硬貨による募金はまだまだ需要があると考えています。ボックス登録設置数は1058個。

今後も新規開拓や休眠ボックスの確認に鋭意努力します。受贈品寄付も前年に比べ70万100円の増額となりました。イベント参加は子ども達の成長に必要な体験が得られ今後の人材育成に繋がります。そのことから各種イベントへ積極的に働きかけました。

ウ. 受贈（招待券）寄付の状況

当年度のイベント招待券寄贈は表の通りです。

受 贈 品	受 贈 団 体	金 額（枚数）
MINIATURE LIFE 展 2	沖縄テレビ放送株式会社・9回目	132,600円（102枚）
ハッピードリームサーカス沖縄公演	全日本港湾労働組合沖縄地方本部・初	460,000円（200枚）
ハッピードリームサーカス沖縄公演	琉球物流株式会社・初	210,000円（70枚）
カヌチャスターダストファンタジア	株式会社カヌチャベイリゾート・初	120,000円（40枚）
東京ヤクルトスワローズオープン戦	日本自動車販売協会連合会沖縄県支部・12回	55,000円（30枚）
琉球ゴールデンキングス公式戦	琉球ダイハツ販売株式会社・8回目	195,000円（50枚）
	合 計	1,172,600円（462枚）

（前年度比700,100円増）

エ. 大口寄付の状況

大口寄付は118件（前年度比16件増）、うち初寄付は19件（同8件増）でした。大口寄付の最高額は100万円で1件ありました。5万円以上の内訳は表の通りです。

詳細は16～19頁の一覧表に掲載しています。

金 額（円）	件 数	金 額（円）	件 数
200万円	0 (1)	20万～25万円未満	6 (12)
100万円	1 (1)	15万～20万円未満	15 (5)
50万～100万円未満	3 (4)	10万～15万円未満	16 (26)
40万～50万円未満	3 (2)	5万～10万円未満	65 (43)
30万～40万円未満	0 (4)		
25万～30万円未満	9 (4)	合 計	118 (102)

※()内は、前年度の実績

(2) 広報活動の取り組み

ア. 寄付贈呈の記事掲載

広報活動の取り組みとして寄付金贈呈式の内容を新聞社へ提供し掲載していただいたほか、当年度はテレビのニュースでも取り上げてもらいました。

見逃した方へは、沖縄テレビ放送オフィシャルサイトからのアーカイブ視聴が可能です。

イ. 機関紙『南風』の発行

独自制作の『南風』では理事会、評議員会、選考委員会や寄付金贈呈など会の活動様子を写真とともに掲載しました。また、保護者からの感謝の言葉やイベント等へ参加した子どもたちの声もできる限り紹介しました。

配布先は、遺児家庭、寄付関係企業、学校・教育委員会・県、各市町村、警察各署、ボックス設置場所、賛助会員、などです。

令和5年度の発行状況は表の通りです。

No.	発行号 (回数)	発行時期	発行部数
1	夏季号 (第 101 号)	令和 5 年 6 月	4,000 部
2	秋季号 (第 102 号)	令和 5 年 10 月	4,000 部
3	春季号 (第 103 号)	令和 6 年 2 月	4,000 部

ウ. 交通安全関連運動への参加

交通事故防止や啓発活動に取り組む県・県警本部など行政機関と連携し、季節ごとの交通事故防止運動の出発式や、飲酒運転の根絶を目指す県民大会に参加しました。

令和5年度は内閣府が主催する交通安全フォーラムと県民大会が同時開催となりました。

その他、県（子ども生活福祉部 消費・くらし安全課）が制作する交通事故防止・飲酒運転根絶を呼び掛けるポスターを事務所周辺に掲示するなど周知に努めました。

エ. 新規取り組み

- ① 県内の困窮世帯への民間支援情報を一元化したポータルサイト・カケハシオキナワへの登録・掲載に向け取り組みました。当会の広報力だけでは発信力が弱く今後も定期的に活用していきたいです。（以下はカケハシオキナワサイト内の当会紹介ページ）



- ② 知名度をあげるための幅広い周知活動を行いました。
未だに当会を知らない方や支援内容をきちんと把握されていない方へ向けた発信方法やその取り組み方を見直しました。それら踏まえた活動内容は A～E の通りです。

A 同業他団体との情報交換

東京の交通遺児育英会より、交通遺児支援について広報を通じ積極的な意見交換会を行いたいと企画が持ち込まれ、同育英会の石橋健一会長と船越理事長で対談を行いました。「若い人たちが将来を切り開いていく上での支えとなれるよう、今後も情報交換や連携を取りましょう」などと話された対談の様子は、令和5年12月20日の琉球新報（15段フルカラー）に掲載されています。

掲載後、その反響もあって事務局への問い合わせが寄せられるなどありました。

関連記事として、当会機関紙「南風103号」と育英会機関紙「君とつばさ363号」へも掲載しています。（各記事を14、15頁に掲載しています。）

また、公益財団法人出光美術館・助成事業部の来所がありました。沖縄県の交通遺児対象の給付金支援拡大のためです。当会も二重給付の撤廃により、保護者へ情報提供が増加しました。

B 沖縄県社会福祉協議会主催イベント内での周知

沖縄県社会福祉協議会が主催する「サンクス運動県民福祉講演会」で当会パンフレットと南風を配布しました。今後は交通遺児等に関係ある内容の講演会等で、配布を依頼する事ができます。講演参加者が福祉関係者、教育関係者、民生委員児童委員とあって、当会の重要課題である交通遺児等の情報（発掘）収集にも連携を取れるよう努めたいです。

C NHK沖縄放送局を通した給付申請者募集の呼びかけ

当年度の給付申請者募集の呼びかけについてNHK沖縄放送局へ依頼したところ、当方が指定した期日中での放送をしていただきました。「ラジオで聞きました」など、内容に関しての問い合わせもあり効果実績に繋げることができたと実感しています。今後もしできる限り理事のみなさまのご協力を仰ぎながらTV・ラジオ・新聞など周知活動の場を増やしていきたいです。

D (公社) 沖縄被害者支援ゆいセンター、沖縄県警察本部の訪問

当会は、公益社団法人沖縄県被害者支援ゆいセンターと沖縄県警察本部との関わりがありながらも連携不足であることを感じていました。ゆいセンターへは、親泊一郎評議員の計らいもあって同行訪問した際に、担当者と情報交換を行うことができました。当会パンフレットや機関紙設置のご協力いただくことができました。県警の訪問では周知について意見交換がなされ、まずは県警発行の「交通事故の被害者とその家族のために」のパンフレット内に救済機関として当会の案内が掲載されることも叶いました。今後は周知の方法をいろいろ提案していきます。

E 広報として周知の場を開拓

県学校校長会の会議において、交通遺児奨学金の内容説明と各学校のホームページでのバナー掲載を依頼しました。また、パンフレット設置依頼のために、沖縄県交通事故相談支所（那覇、中部）、沖縄県PTA連合会、三幸学園・飛鳥未来きずな高校、糸満市役所・豊見城市役所・読谷村役場・嘉手納町役場・北谷町役場各こども課を訪問しました。

4 その他

公益目的事業を円滑に行うためには法人運営の取り組みも重要です。

令和5年度も以下の通り取り組みを行いました。

(1) 沖縄県補助金の交付申請手続き

補助金は、県知事に対し次年度の事業計画・収支予算書、事業実績を報告し承認を得た上で金額が決定します。

令和5年度も、事業運営の適切性、財務状況の適切な公開状況など厳しく検査され10万円交付されました。前年度同額です。

(2) 法人市・県民税の免除申請

各都道府県や市町村には法人市・県民税の免除措置があります。当年度も法人市・県民税の免除申請を行ったところ承認を受ける事ができました。収益事業のない当会は要件を満たしているため、毎年免除措置を受けています。

(3) 基本財産及び特定資産の満期書き換えの手続き

財産運用に関しては、資産運用規程に準じ管理しています。

担当税理士や専門家意見を参考に、いくつかの選択肢の中から「資産保持」と「収入確保」の両立が可能な書き換えを行いました。

まず、地方銀行や信用金庫が示す店頭金利に対し上乗せ可否に注目しました。上乗せ交渉では多少なりバラつきもあって預金先選びはより慎重に行いました。

事前調査や情報収集、専門家意見を参考にした結果、表3（前預金先：沖縄銀行）と4（前預金先：海邦銀行）は、高金利かつ、上乗せ利率を高く提示したコザ信用金庫へ資金を移動しました。

これまでの減額分を取り戻す狙いもあって、今後、マイナス金利解除後の高金利の影響にも期待したいところです。

なお、表1 JAおきなわ取扱いの5,000万円は覚書で管理されている資産です。

金利交渉はできませんが毎年、高金利をいただくことができています。（前年度比差異なし0.1%）なお、当年度満期を迎えた資産は表の通りです。

No.	預金機関名	満期日	預金種類	預金期間	金額
1	JAおきなわ	令和5年6月	定期預金	1年を1年へ	50,000,000円
2	コザ信用金庫	令和6年2月	定期預金	3年を5年へ	10,000,000円
3	コザ信用金庫	令和6年2月	定期預金	3年を5年へ	12,000,000円
4	コザ信用金庫	令和6年2月	定期預金	3年を5年へ	22,000,000円
5	沖縄海邦銀行	令和6年2月	定期預金	3年を3年へ	14,000,000円
6	沖縄銀行	令和6年3月	定期預金	10年を1ヶ月へ	10,000,000円